

2. 今出水期を踏まえた計測結果

2-1 国の計測結果（4月頃～7月28日）

(1) 2-1 (1) ~ (6)

- ・ 6月末頃、SK05-7、C、D、E孔について、1mm/10日を目安とした著しい挙動を記録。
- ・ 河川管理者により原因を調査したところ、7月19日に日計測班の使用するケーブルに損傷が発見され、それに伴うノイズの可能性が高いと判断。
→7月22日に河川管理者から道路管理者へ、7月10日～19日のデータは欠測扱いとし、その間の旧ケーブルによるデータは参考値とする旨の申し入れ
→7月20日以降については、新ケーブルによる計測値で日変動量を管理し、累積値は7月9日（Dは7月13日）の値に加算して扱うことを提案

(2) 2-1 (1)' ~ (5)'

7月10日から19日にかけての異常値を削除して、孔内傾斜計の計測値を取りまとめ

- ・ すべり面付近の破砕が著しい範囲、またすべり面以外でも破砕が進んだ層を挟む範囲において、変位が大きな傾向が見られるが、硬質なコアが採取される範囲でも変位が大きな場合も見られる。
- ・ すべり面付近以外では、表層に存在する崩積土の移動、またガイド管の自重や継手による歪み等の影響が原因と想定され、また、硬質なコアでも同様の動きが見られるため、これらは参考値として取り扱う。

(3) 2-1 (7)

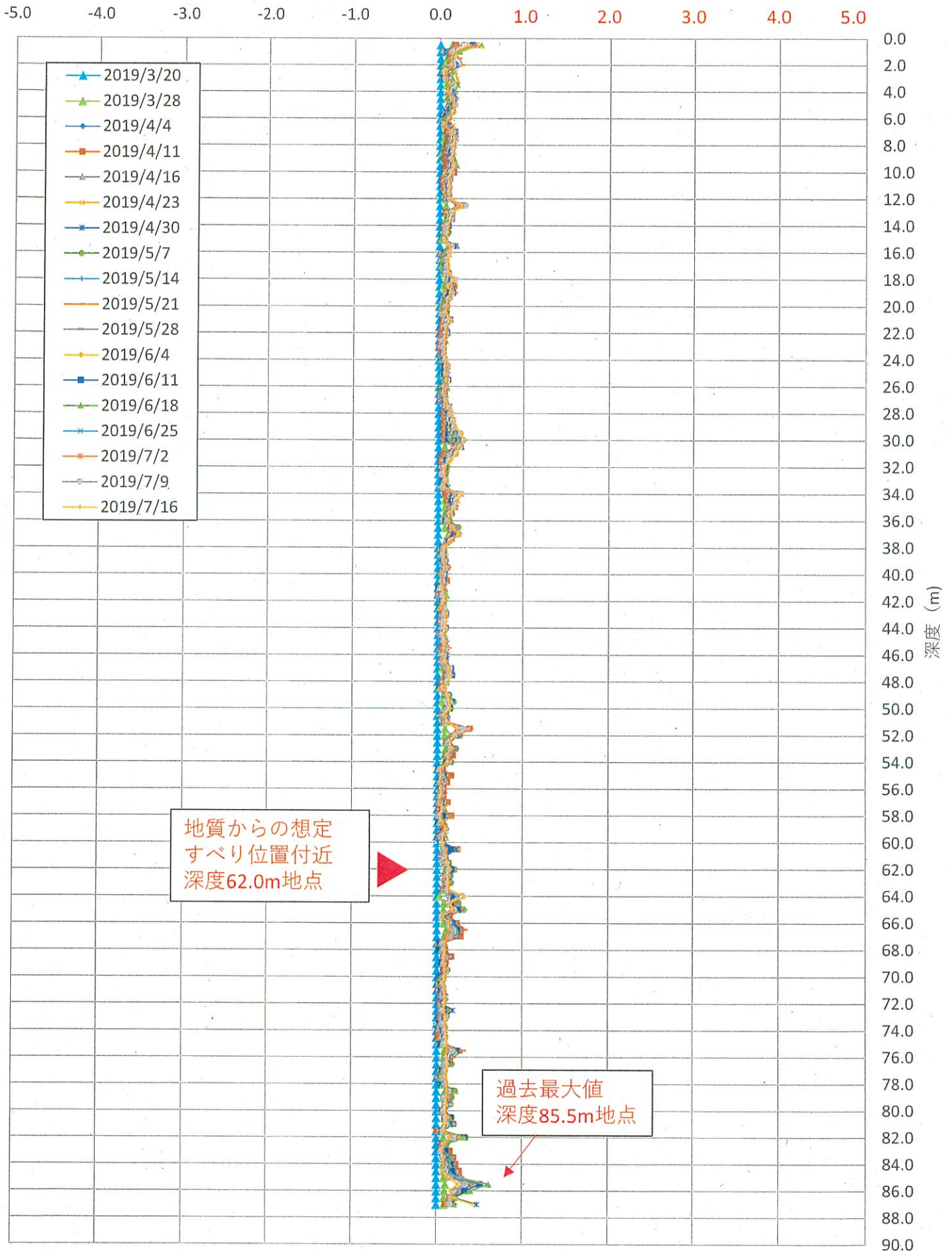
- ・ A～Eの各観測孔におけるすべり面付近の変位を時系列的に取りまとめたところ、4月以降の孔内傾斜計の計測結果を見ると、A以外は累積傾向にあり、地すべりは緩慢な移動を継続していると考えられる。Cのすべり面付近(58.0m)の変位が最も大きく、計測開始以降、0.470mm(7月28日)である。
- ・ 降雨量が増加する6月25日以降に変位が大きくなる観測孔がある一方、25日以前の変位が大きな観測孔があるなど、全ての観測孔が降雨量に応じて変位が増加する傾向では無く、地すべりの移動と降雨との関連は明確でない。

2-1 国の計測結果

(1) 孔内傾斜計 A (SK18-5)

週計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

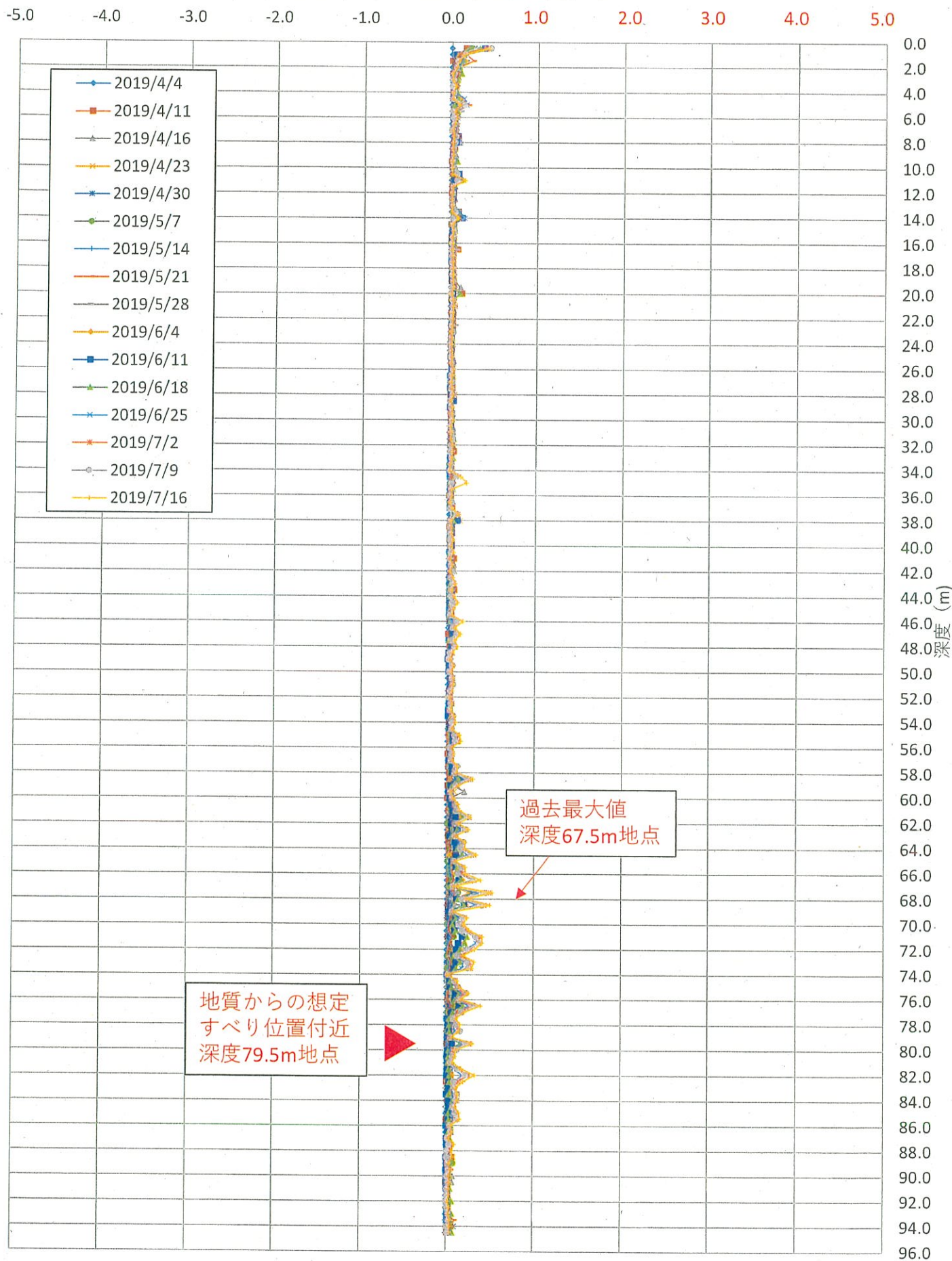


2-1 国の計測結果

(2) 孔内傾斜計 B (SK18-3)

週計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

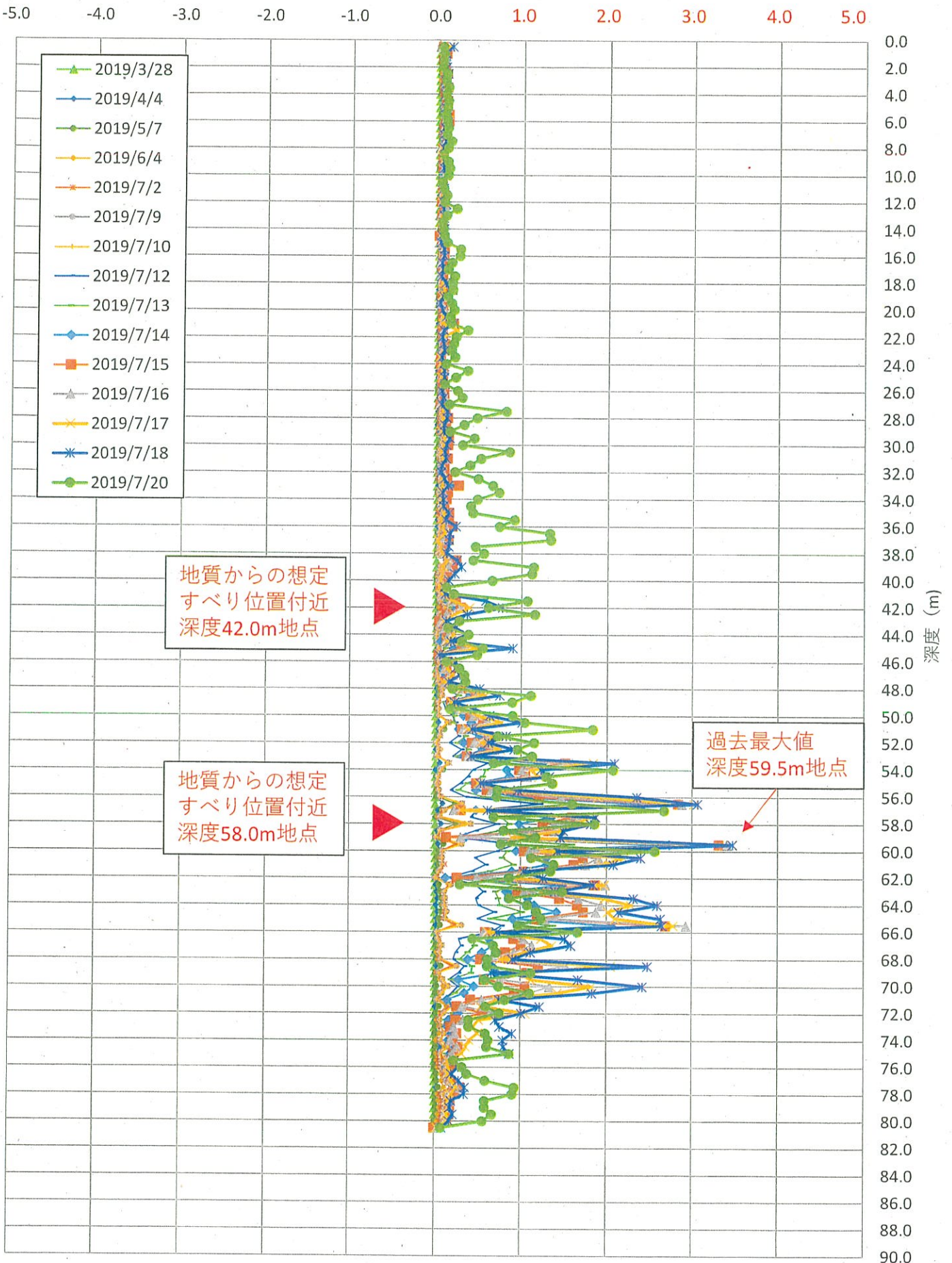


2-1 国の計測結果

(3) 孔内傾斜計 C (SK18-2)

～7/9週計測 7/10～日計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

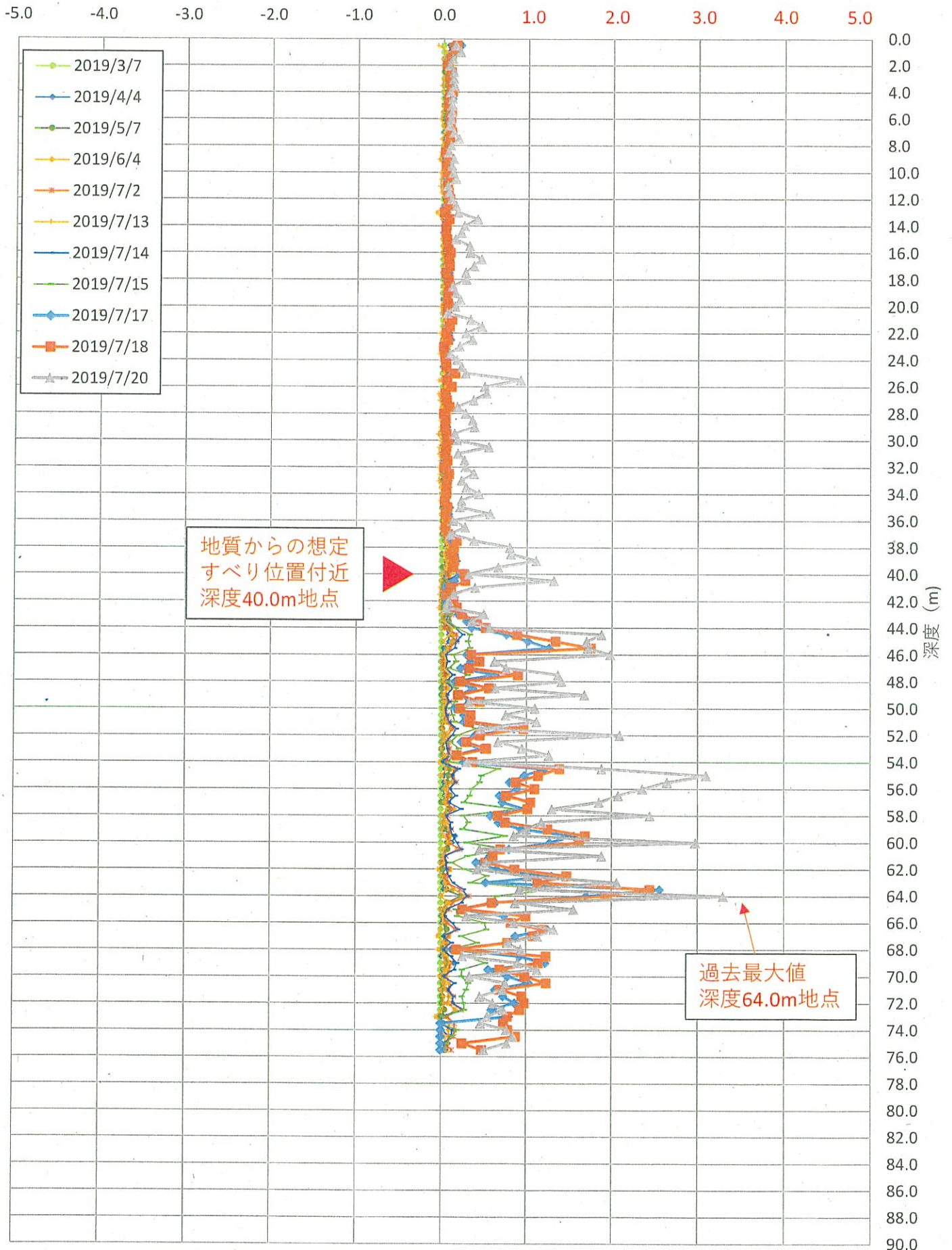


2-1 国の計測結果

(4) 孔内傾斜計 D (SK18-1)

～7/13週計測 7/14～日計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

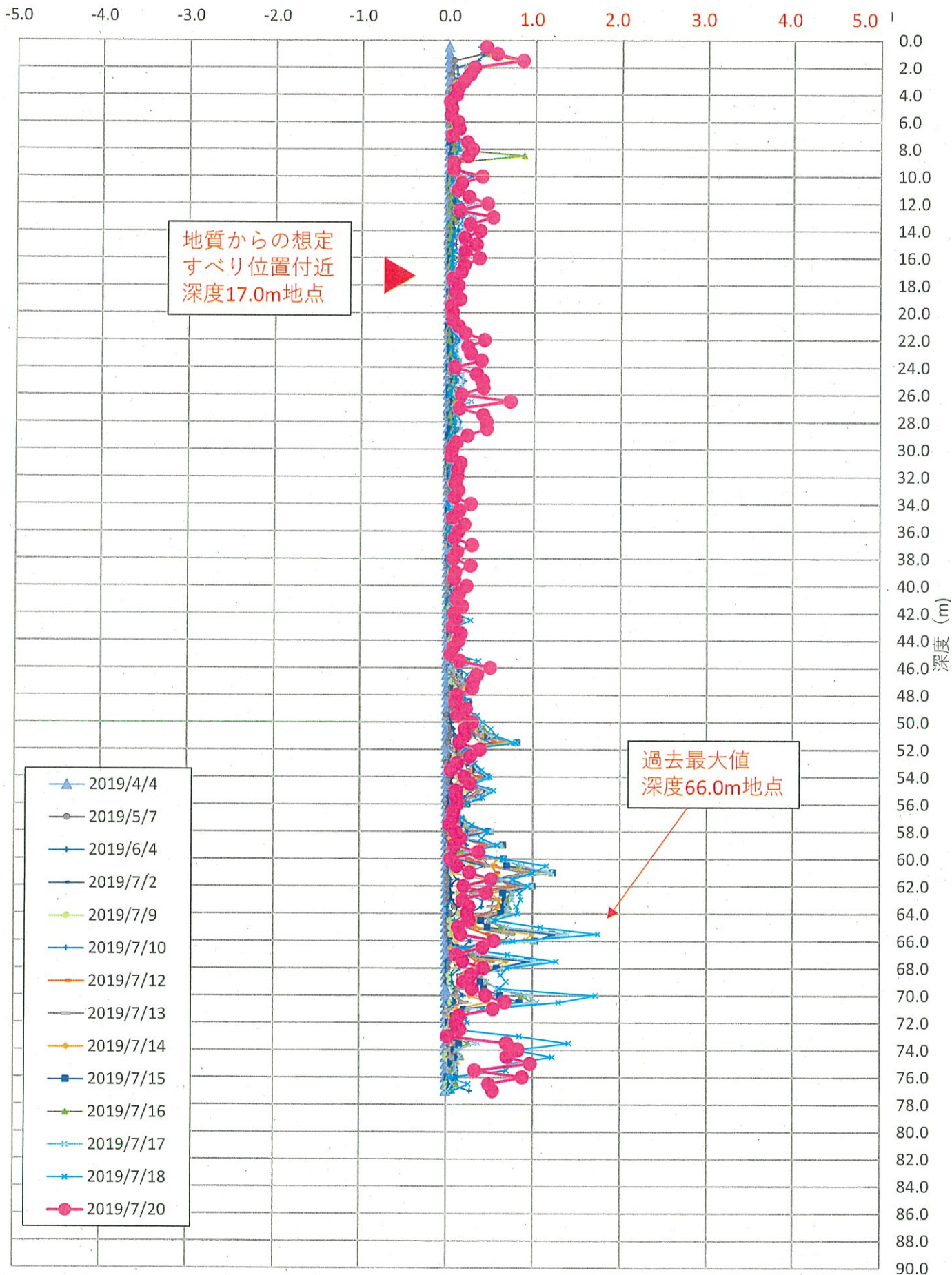


2-1 国の計測結果

(5) 孔内傾斜計 E (SK18-4)

日計測

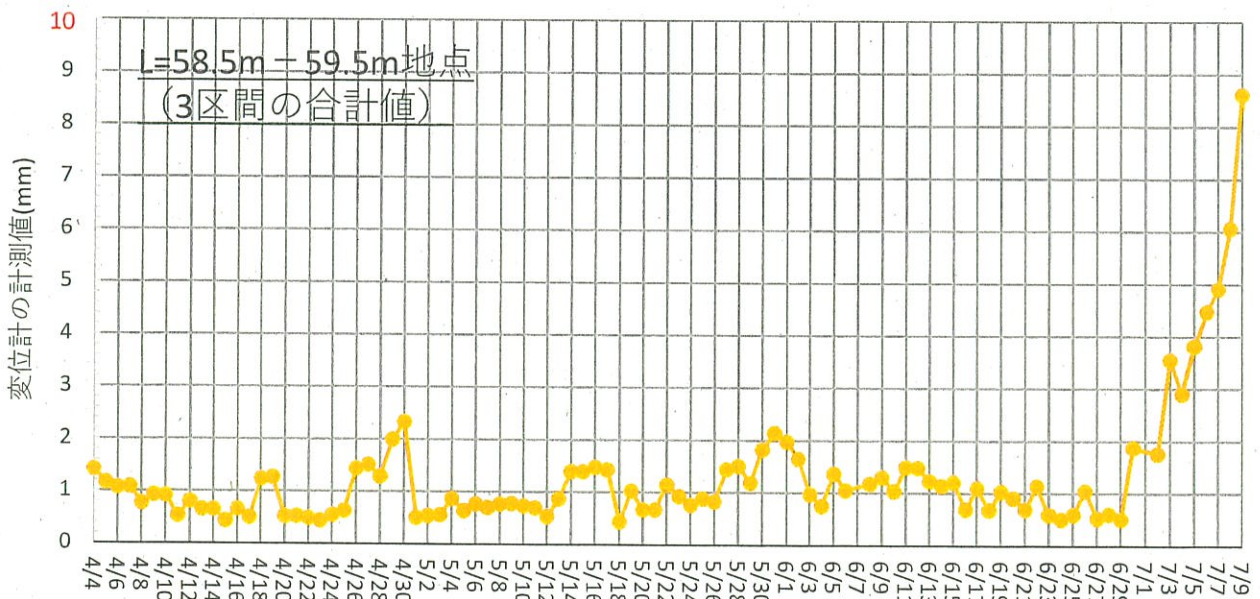
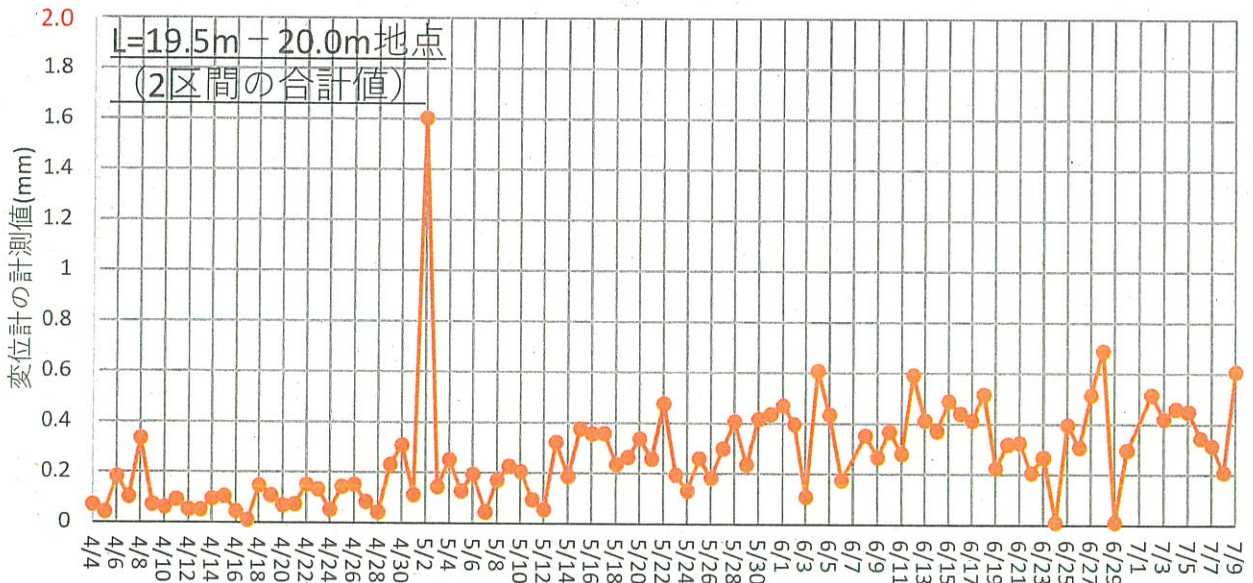
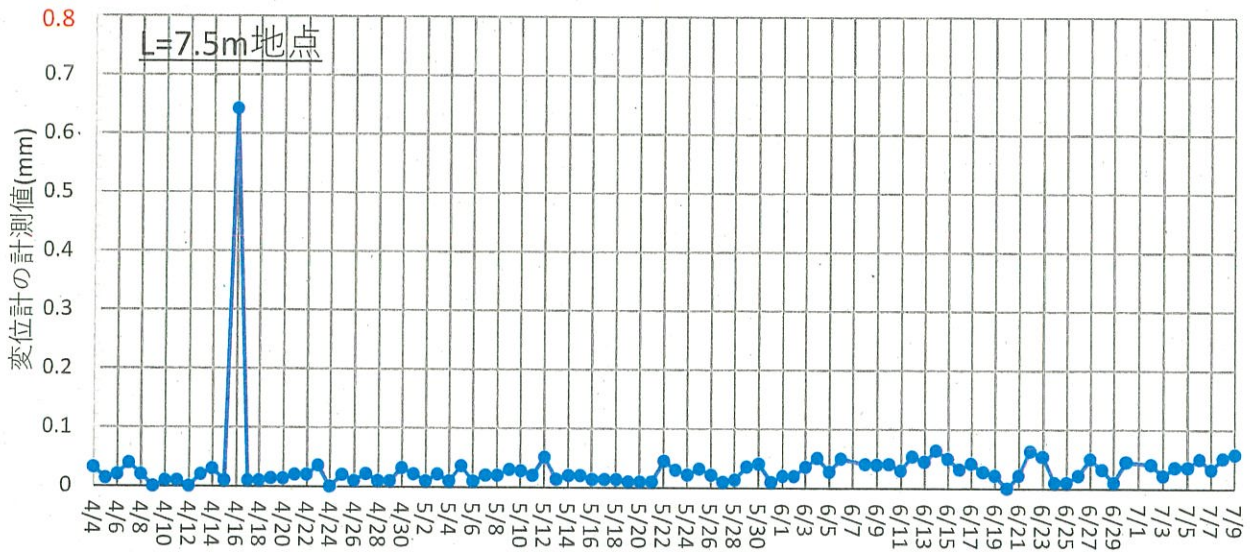
変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)



2-1 国の計測結果

(6) 孔内傾斜計 SK05-7

日計測

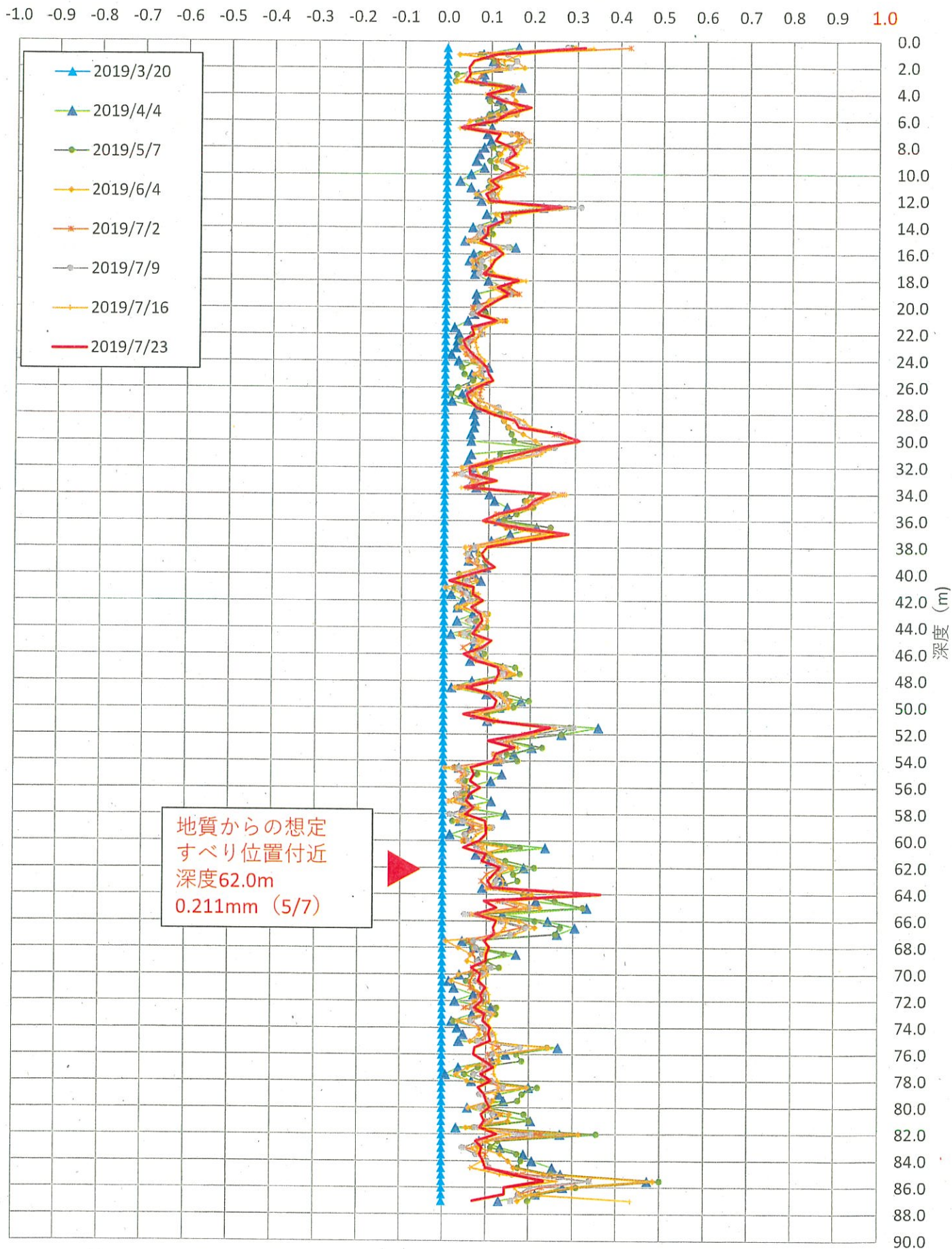


2-1 国の計測結果

(1)' 孔内傾斜計 A (SK18-5)

週計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

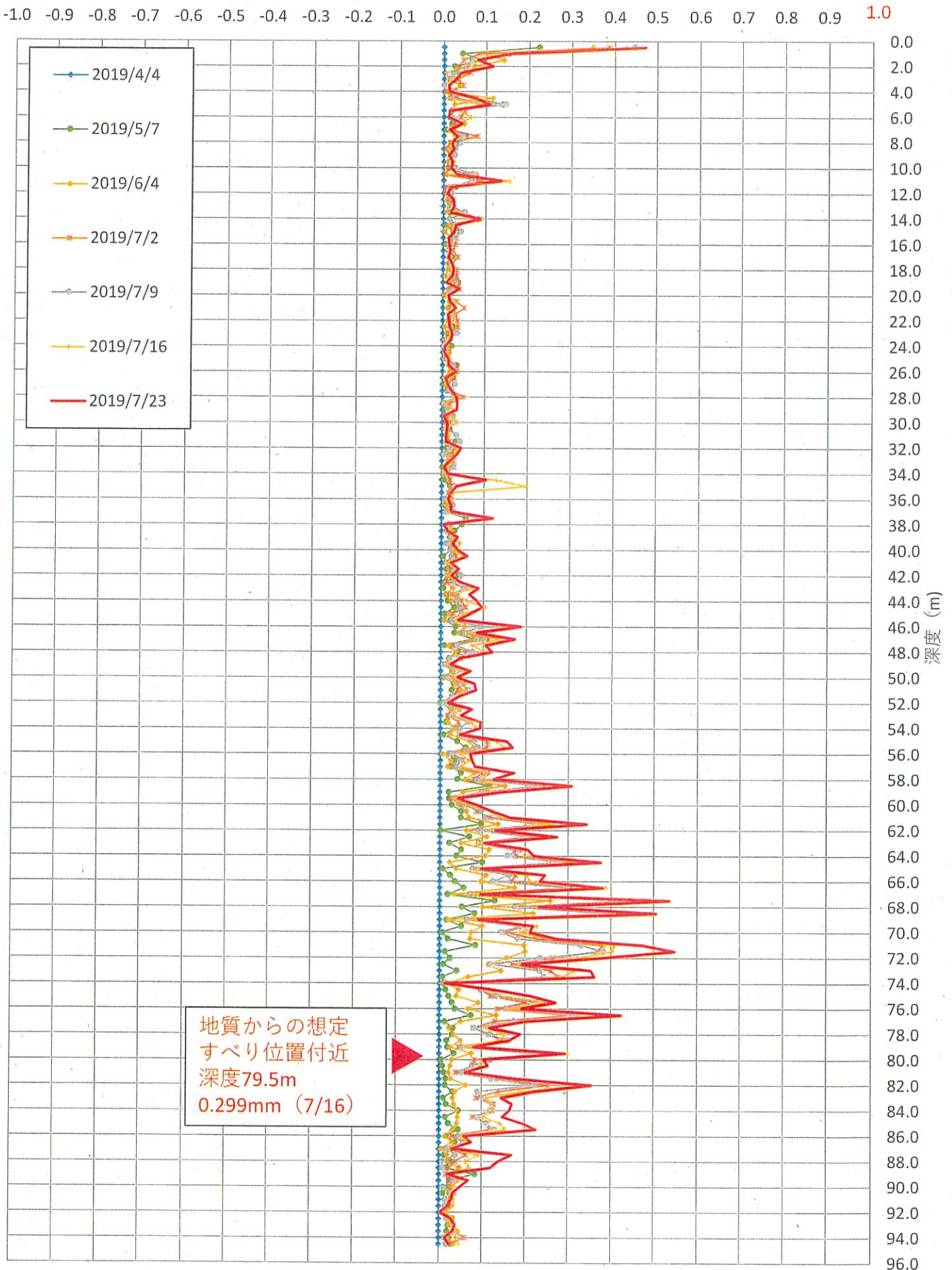


2-1 国の計測結果

(2)' 孔内傾斜計 B (SK18-3)

週計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)



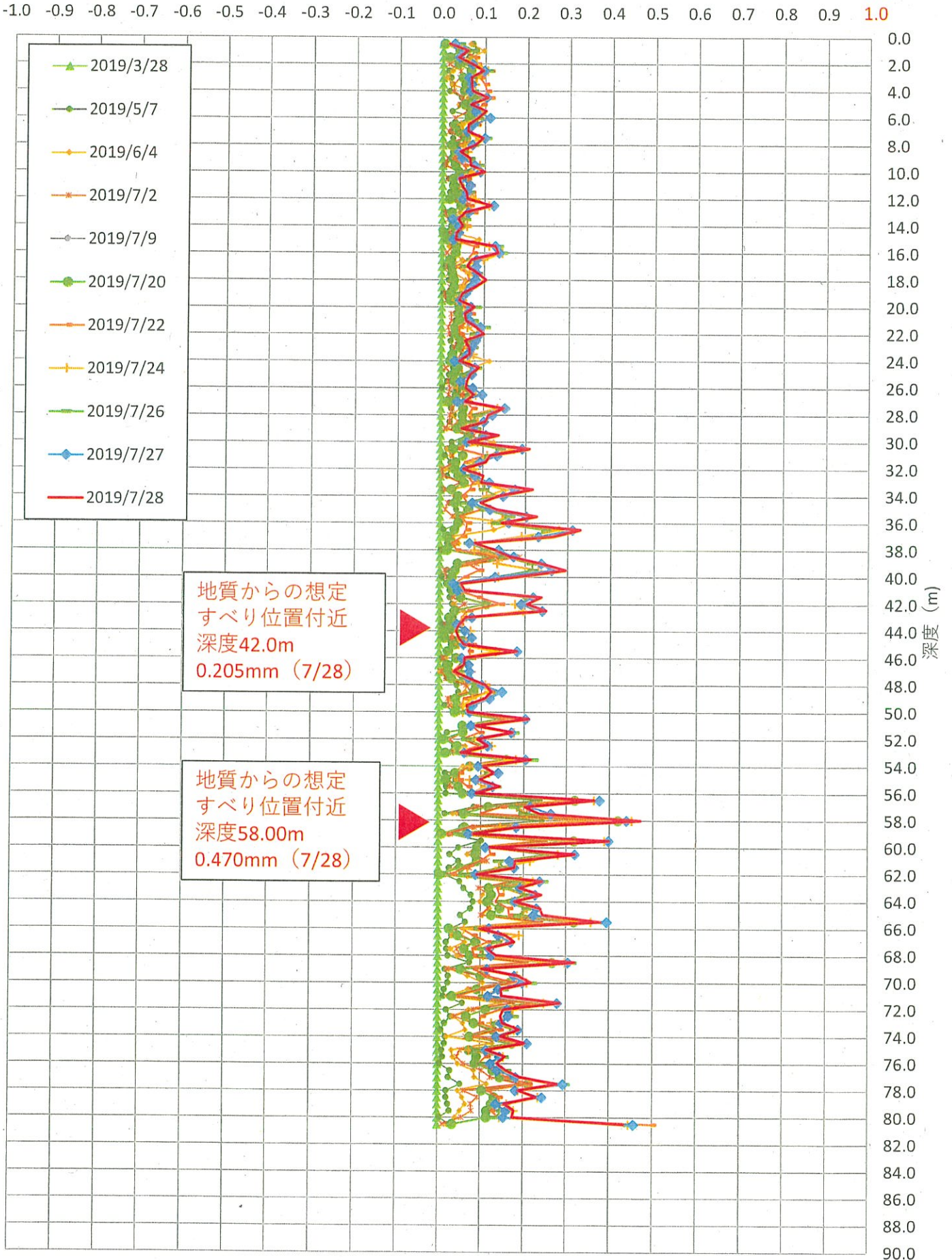
地質からの想定
すべり位置付近
深度79.5m
0.299mm (7/16)

2-1 国の計測結果

(3)' 孔内傾斜計 C (SK18-2)

～7/9週計測 7/20～日計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

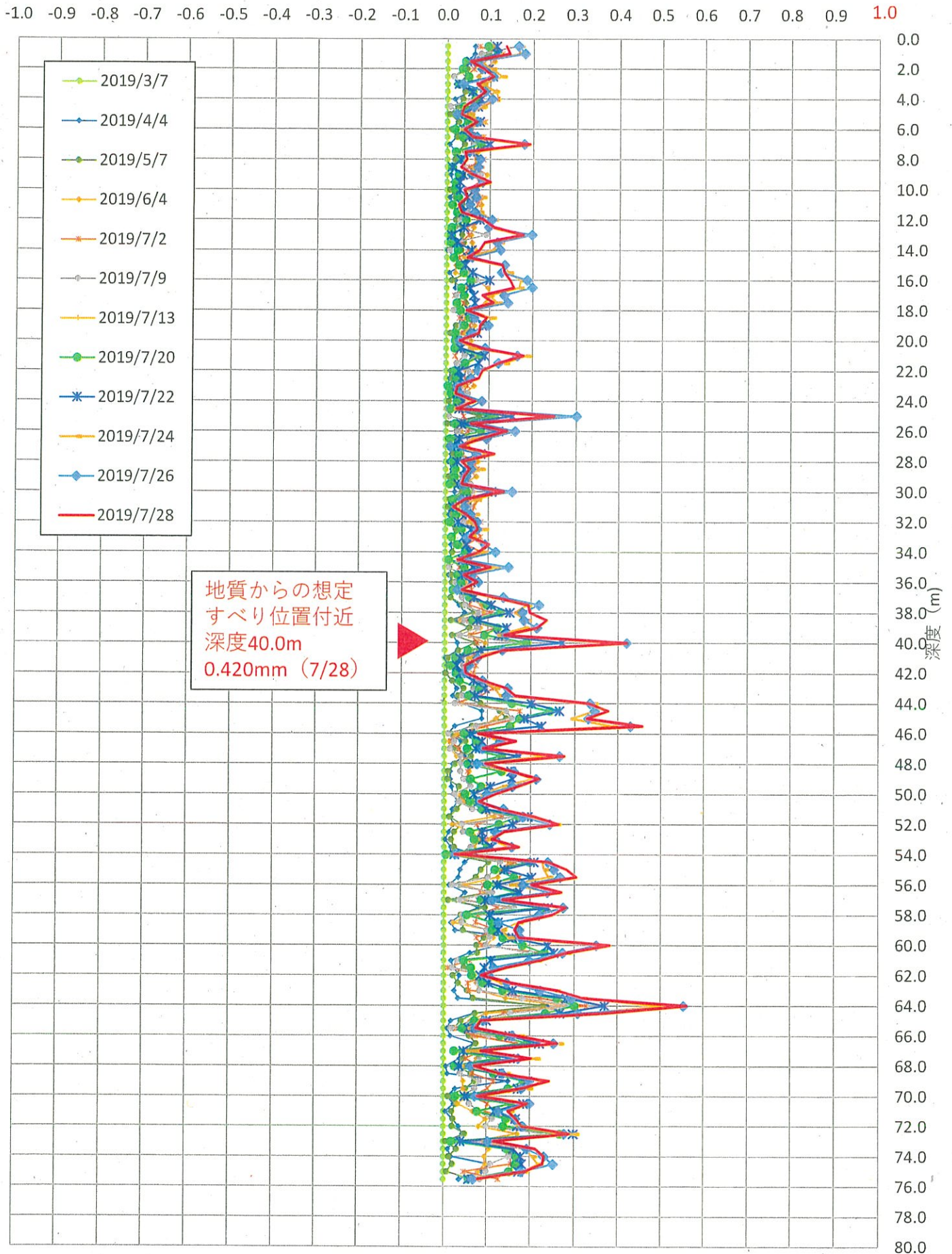


2-1 国の計測結果

(4)' 孔内傾斜計 D (SK18-1)

~7/13週計測 7/20~日計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)



地質からの想定
すべり位置付近
深度40.0m
0.420mm (7/28)

2-1 国の計測結果

(5)' 孔内傾斜計 E (SK18-4)

日計測

変位量(mm) 合成変位 (坑口側に変形+)

